

反響続々の話題映画「サクラ花く桜花最期の特攻」と
出演の林家三平による、ここでしか聞けない
“幻の落語”が画期的競演！

—桜花最期の特攻—

サクラ花

- 林家三平「出征祝」特別限定高座
- 「サクラ花く桜花最期の特攻」上映
- 松村克弥監督と西田英智によるトークショー



祖父・正蔵の
封印された落語を71年ぶりに復活！

特別出演 林家 三平

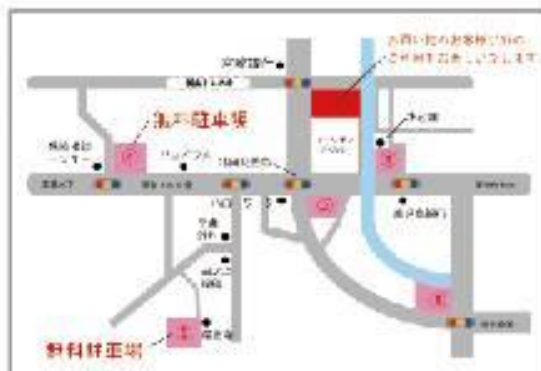
3月21日(水・祝) リナシティかのや (鹿屋市市民交流センター)
〒893-0009 鹿児島県鹿屋市大手町1番1号

1回目上映【開場】13:30【開演】14:00 **2回目上映【開場】18:00【開演】18:30**

- 料金【税込・全席自由】一般 **1500円** 高校生以下 **1000円** ※当日券 500円増となります。
- チケット販売所 リナシティかのや tel.0994-35-1001、鹿屋市文化会館 tel.0994-44-5115、ホームセンターきたやま、生鮮マーケットかねた
- 主催 鹿屋市教育委員会 ■企画・制作 機まちづくり鹿屋、サクラプロジェクト
- お問い合わせ リナシティかのや(鹿屋市市民交流センター) tel.0994-35-1001

駐車場のご案内

- ①イベント広場駐車場 ②まちなかパーク駐車場
午前8時から午後6時までは最初の30分無料。リナシティかのや利用者は認認により更に3時間30分無料。
 - ③ピット88駐車場
午前8時から午後6時までは最初の1時間無料。リナシティかのや利用者は認認により更に4時間無料。
 - ④城山公園駐車場 ⑤ハローワーク駐車場
終日無料開放
- ※マックスバリュ駐車場はお買い物のお客様専用駐車場ですのでご利用できません。



1945年ー

僕らに羽ばたく空などなかった。

第二次大戦末期、一つの兵器が生み出された。

それは、おびただしい若者たちの命を奪った兵器、「桜花(おうか)」。

プロペラも車輪もない。敵艦に向かって突撃するだけの一人乗り小型特攻機。

一度乗れば、二度と生きて戻れず、「人間爆弾」と呼ばれた。

茨城県・神之池基地(現在の神栖市・鹿嶋市)での秘密訓練を終え、

昭和20年初夏、桜花は一式陸攻機の腹部に搭載されて、激戦地の沖縄に向かう。

乗員は8人。うち、桜花に乗り込むのは17才の少年であった…。



映画評論家 寺脇 研

ヒロイズムも無ければ救いもない。生き残る者の感傷も無い、戦争において人間が次々無念の思いで死んでいく悲劇を、ここまであからさまに描いた映画はなかった。

作家 小林 照幸

(大宅壮一ノンフィクション賞受賞)

戦争を知らない世代による戦争を知らない世代への伝え方が戦後71年という節目の中で、改めて問われる中、本作品は独自の重みを有している。



作家 竹吉 優輔

(第59回江戸川乱歩賞受賞)

この国はかつて、カタルシスや救いが存在しない「戦争」があった。どの戦争映画とも違う、生々しい血の感傷。慈悲も美学もない死に様に、本物の戦争を感じた。



エッセイスト・作家 海老名 香葉子

狭い空間の中で、悔しい自分の死を嘆くことさえできず死んでいく兵士、死を直前にして、「お母さん」と言えないことも分かった。現実の特攻機の中を見てほしい…。平和の今日だからこそ、日本中の皆さん、観てください！

世界中の皆さんにも見て頂きましょう！

映画祭ディレクター 藤本 高之

知られざる特攻兵器を題材にした、

これぞ「空の『野火』」!

歴史時代作家クラブ代表幹事・小説家 岳 真也

素晴らしい映画です。確実に戦争が「観」になります。それぞれの兵ではなく、敵でも味方でもなく、「戦争」そのものが観になるので。冷徹冷酷な機長役の緒形直人が、「お国のために死ぬます」という主役の若い整備兵曹(大和田健介)と対峙する場面は圧巻。



「桜花」を抱く一式陸攻機(イメージ)

「桜花」とは

昭和20年に実戦に投入された日本海軍の高速特攻機で、長さ約6mで、頭部に全重量の半分にも当たる約1.2トンの爆弾を充填し、尾部に推進ロケットを装備した物であった。一式陸攻機を母機として、その腹下に懸吊されて運ばれ、敵艦隊に近づくと隊員(桜花搭乗員)が母機から乗り移り、ロケットを噴射しつつ滑空して敵艦隊に体当たりを行うものである。桜花の出撃は10回に及んだが、桜花操縦員55名、一式陸攻搭乗員365名が戦死したとされている。



撮影用に実物大で復元された桜花



推薦/茨城県遺産連合会・茨城県更生保護女性連盟・茨城県交通安全母の会連合会・茨城県女子体育連盟 映画「サクラ花」公式サイト www.sakurabana.org

監督/松村克弥 エグゼクティブプロデューサー/櫻井一男・堀谷浩一 プロデューサー/亀和云・城之内美子 脚本/菅乃廣・松村克弥・亀かずお
ラインプロデューサー/戸山剛 アシスタントプロデューサー/菅乃廣・谷口昭仁 キャスティング/難田信司 監督装・特技監督/石井良和 助監督/杉田真
撮影/はやしまたこと(S.C.) 照明/古池征介 美術/菊池章雄 鉄道員/大澤克彦 装飾/岸田博英 音楽/村石義徳 衣裳/森口誠治 編集/小野寺昌也 VF:スーパーバイザー/田中貴志
ヘアメイク/宇野幸子 特殊メイク/西村泰隆 音楽/坪野晴也 音楽指導/円城寺 事務局長/城之内美子 アートディレクター/藤代直雄 制作協力/マウンテンゲートプロダクション
製作支援/映画「サクラ花」製作委員会 主題歌「春舞う日は」(作詞 海老名香葉子&Yasuhisa・作曲 藤原 泰康) 撮影協力/はばらきフィルムコミッション
配給宣伝/映画センター全国連絡会議・サクラプロジェクト 宣伝協力/ファミリーアーツ

ただ、守りたかった。沖縄を、日本を、家族を、恋人を…